



日原いずみの ほおずき サロン

— 38 —

本当の健康 住宅とは①

新年最初、連載3人目のゲストライターに今週と来週、ご登場いただきます。

曾祖父の代から1000年以上、豊橋市で住宅を造り続けている野川建設の足立(旧姓・野川)和佐です。物心つく頃には、大工さんが作業場で木材を削る音で目覚め、休日も平日もなく建築に向き合う父、そして自営業を支えながら4人きょうだいを育てる肝っ玉母さんの下で育った私は、



野川建設の足立さん

現在は父と母と同じ建築の仕事をしています。

幼い頃から両親と同じ建築の道に進みたいと思ひ、

大学時代には住宅を造りたいと具体的な夢ができ、新卒で入った会社では住宅リフォームに携わることで、

住宅づくりの奥深さとお客さまに満足していただく喜びを知りました。そして、

私を建築の道へ導いてくれた両親の会社を自分自身で支えていきたいと思ひ、野川建設に入社しました。

独身のうちは仕事第一で、残業も休日出勤もいとわず働き、28歳で一級建築士を取得し、新卒から数年間突っ走った後、そろそろ結婚したいという思ひに猛烈に駆られていた時に運命の人に出会い、32歳で結婚、34歳で第一子を出産しました。

さて、私の生い立ちはこのくらいにしておきましょう。

て、皆さま、シックハウス症候群という言葉をご存知でしょうか。

私は建築にずっと携わってきたため、シックハウス症候群や化学物質過敏症という言葉は以前から知っていました。でもどこか他人事で、遠い世界の話であるという認識を持っていました。

しかし実際は、建築業界で今や当たり前に使われている新建材(集成材や合板、ビニールクロス、接着剤、塗料など)と呼ばれるものたちによって健康を侵されている人々が日本中にいて、いつだれが発症してもおかしくないものだったのです。

新建材自体には、コストカットや、施工性の向上等のメリットがあります。しかし、価格や効率を重視し過ぎたためにおおきくなった「住む人の健康」という

問題が見過ごされてしまっているのも事実です。

野川建設は、本当の健康住宅を突き詰めた「空気がうまい家」をつくっています。

そこには、新建材を極力使用せず、住む人の健康のために選び抜いた「音響熟成木材」と「幻の漆喰(しつくい)」

を使用しています。少しうさん臭いネーミングに、最初は戸惑いました。しかし鹿児島にある「空気がうまい家」のモデルハウスを訪れ実物に触れてみると、体験したことのない心地よい空間に驚くとともに、こんな家に住みたい、と本能的に感じずにはいられませんでした。

「音響熟成木材」は、機械での高温乾燥をせずに常



モデルハウス「海の見える空気がうまい家」内観

温に近い温度でクラシック音楽を聴かせながら乾燥させています。そのため、木が生きています。

「幻の漆喰」には一般的な漆喰にはない有害物質を分解する作用があり、半永久的に室内の空気をきれいに保ってくれます。

それまでいろんな建築材料を見てきましたが、こんなものがあるのか! と正に目からうろこでした。

(続く)